

都道府県・ 指定都市番号	1	都道府県・ 指定都市名	北海道	研究課題番号・校種名	3 (5) 中学校・高校
				領域名	校種間連携
研究課題	<b>学校全体で取り組む研究課題</b> (5) 校種間の連携による教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
ふりがな 学校名  (園児・児童・ 生徒数)	おしやまんべちとうりつおしやまんべちゅうがっこう 長万部町立長万部中学校 (92 人)  ほつかいどうおしやまんべこうがっこう 北海道長万部高等学校 (69 人)			学校・地域の特色及び実態等 ・長万部高校は「持続可能な学校づくり」，長万部町も「持続可能なまちづくり」という共通の課題がある。 ・これまでも校種間や地域との連携・協働は，ある程度なされている。	
所在地 (電話番号)	〒049-3516 北海道山越郡長万部町字栄原 138 番地 長万部町立長万部中学校 (電話番号 01377-2-2064) 〒049-3516 北海道山越郡長万部町字栄原143番地 1 北海道長万部高等学校 (電話番号 01377-2-2069)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://www.oshamanbe.hokkaido-c.ed.jp">http://www.oshamanbe.hokkaido-c.ed.jp</a> (北海道長万部高等学校)				
研究のキーワード	「小中高連携によるキャリア教育の充実」，「Total-Win の関係」，「チーム長万部」， 「人づくりをまちづくりに」，「身に付けさせたい資質・能力の明確化」				
研究結果のポイント	○小学校も含めた校種間連携を通して，身に付けさせたい資質・能力を意識した町づくりをテーマとして系統的なキャリア教育を推進した。 ○「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を小中高の共通テーマとし，関係者会議（長万部町教育連携会議）での研究協議や合同発表会などに取り組むことができた。 ○指定校事業を通して，生徒や教員の変容を把握し，成果と課題を明確化することできた。				

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

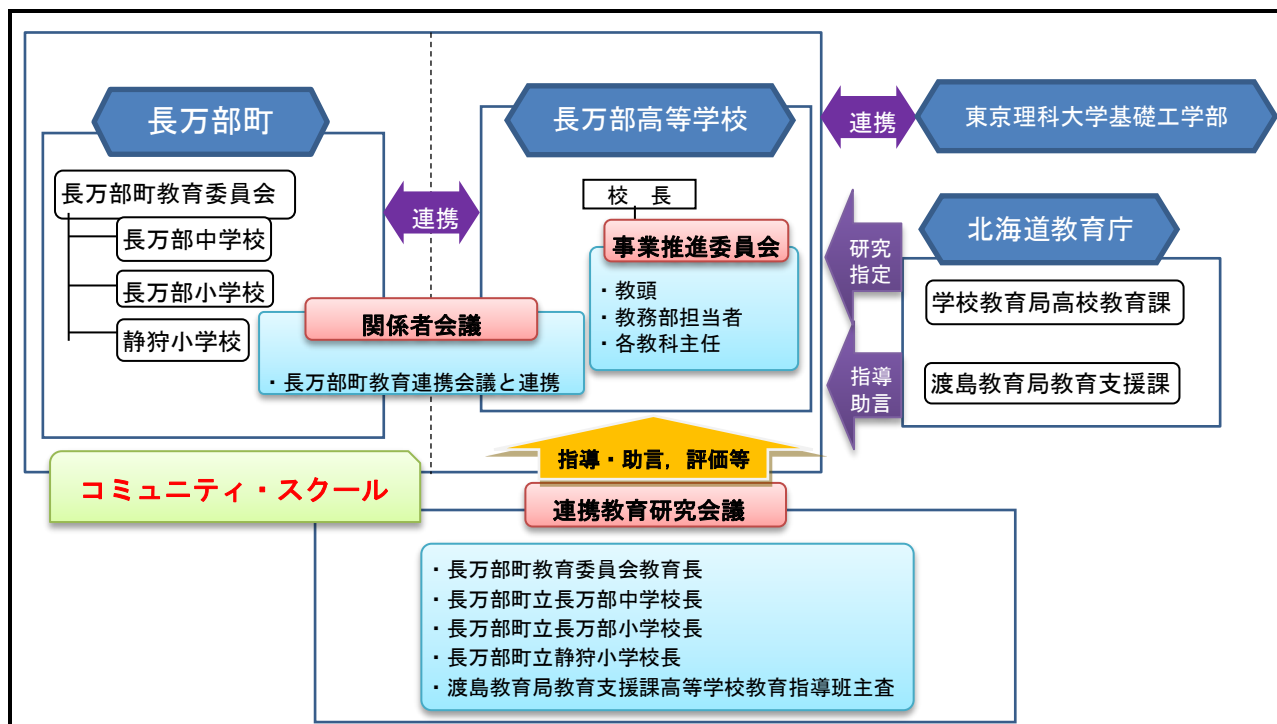
校種間の円滑な接続を核として，社会に開かれた教育課程の編成，指導方法の工夫・改善や世代を超えた人づくりを町づくりにつなげる組織体制・運営の確立に関する研究

### (2) 研究主題設定の理由

現在，小中高及び町教委の連携機関として，長万部町教育連携会議を設置しており，学校運営についてテーマ設定をした協議会と，教科，分掌ごとの協議会とを 2 本柱として実施している。本会議においては，教員間の連携，学校と行政との連携体制が構築されており，一定の成果をあげている。一方，地域の実態や発達段階に応じた児童・生徒の学びの連続性を踏まえた，学校づくりとまちづくりのために，あらゆる世代の地域住民と協働した「Total-Win」の関係を構築すること等の課題がある。

このような課題解決の方策の一つとして，長万部中学校と長万部高校が主体となり「社会参画（まちづくり）の推進，キャリア教育の推進，「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の推進」を観点とした，社会に開かれた教育課程の編成，指導方法の工夫・改善，「チーム長万部」の組織体制の構築が，さらに校種間及び地域の円滑な連携・協働を可能にし，人づくりを町づくりにつなげることができると考え，研究主題として設定した。

### (3) 研究体制



### (4) 2年間の主な取組

平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回関係者会議（長万部町教育連携会議）兼第1回連携教育研究会議(6月20日)</li> <li>・第2回関係者会議（長万部町教育連携会議）(9月12日)</li> <li>・小中高英語連携における先進校視察（北海道寿都町）(10月18日)</li> <li>・キャリア教育の充実における先進校視察（岐阜県可児市）(11月9日)</li> <li>・小中高連携における先進校視察（北海道恵庭市）(11月27日－28日)</li> <li>・第3回関係者会議（長万部町教育連携会議）(12月14日)</li> <li>・第4回関係者会議（長万部町教育連携会議）兼第2回連携教育研究会議(2月5日)</li> <li>・第5回関係者会議（長万部町教育連携会議）(3月9日)</li> <li>※ 生徒や教員に対する事前・中間・事後アンケートの実施</li> <li>※事業推進委員会（通年 計8回）</li> </ul>
平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6回関係者会議（長万部町教育連携会議）兼第1回連携教育研究会議(5月29日)</li> <li>・第7回関係者会議（長万部町教育連携会議）(6月7日)</li> <li>・地域課題解決型キャリア教育先進校視察Ⅰ（島根県飯南町）(7月4日－7日)</li> <li>・地域課題解決型キャリア教育先進校視察Ⅱ（大阪府能勢町）(10月22－24日)</li> <li>・第8回関係者会議（長万部町教育連携会議）(11月8日)</li> <li>・長万部町教育研究発表会(11月15日)</li> <li>・第9回関係者会議（長万部町教育連携会議）兼第2回連携教育研究会議(1月29日)</li> <li>・第10回関係者会議（長万部町教育連携会議）(3月11日)</li> <li>※ 生徒や教員に対する事前・中間・事後アンケートの実施</li> <li>※事業推進委員会（通年 計8回）</li> </ul>

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

#### ア 社会に開かれた教育課程の編成・実施

- ・小中高連携を通して身に付けさせたい資質・能力の明確化
- ・学校内での学びが自己実現や町づくりにつながる自覚を持たせるキャリア教育の充実
- ・社会教育や地域住民との協働教育と長万部教育連携会議の再構築

イ 教科指導等の工夫・改善に向けた取組の実施

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の研究

ウ 上記ア・イを目指したカリキュラム・マネジメントの実現

- ・生徒や保護者，地域住民によるアンケート結果や生徒によるポートフォリオを基にきめ細やかなPDCAサイクルの実現

(2) 具体的な研究活動

ア 社会に開かれた教育課程の編成・実施

- ・「関係者会議（長万部町教育連携会議）」で，小中高で児童・生徒に身に付けさせたい資質・能力の明確化，まちづくりをテーマとした12年間の系統的な「ふるさと学」の実施等，キャリア教育の充実について研究協議した（年4回）。
- ・小中高の教員を4つのテーマ別（教育課程<キャリア教育も含む>・学力向上・生徒指導・特別支援）に分けて，校種間連携を前提とした研究協議を行った（年3回）。
- ・小中高連携や地域課題解決型キャリア教育の先進校として，島根県立飯南高校と大阪府立能勢高校を視察した。
- ・全校生徒による町の行事への参加，地域の外部資源を活用した特色ある教育活動，小中高連携事業を実施した。

イ 教科指導等の工夫・改善に向けた取組の実施

- ・「関係者会議（長万部町教育）」で，校種縦断的・教科横断的な探究活動を重視する中で，「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善について研究協議した（年4回）。
- ・学習成果の発表として，児童・生徒による小中高合同「ふるさと学」発表会を実施した。
- ・小中高合同で「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善をテーマに，教員研修会を実施した。

ウ 上記1・2を目指したカリキュラム・マネジメントの実現

- ・生徒及び教職員に対するアンケートを実施した（年間3回。4月に事前アンケート・9月に中間アンケート・1月に事後アンケート ～「PDCA×3」を活用）
- ・児童・生徒による小中高合同「ふるさと学」発表会では，保護者だけでなく，広く地域の方々にも参加をしていただき，評価及びアンケートを実施した。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 小中高連携を意識した「総合的な学習の時間の全体取組図」を作成し，連携の目的や取組の内容について可視化することによって，小中高で共有することができた。
- まちづくりをテーマとした小中高が発達段階に応じて，全面的に総合的な学習の時間の見直しを図り，「ふるさと学」としてスタートさせることができた。また，その学習の成果発表として小中高合同「ふるさと学」発表会を実施した（高校では，第1学年の総合的な学習の時間で「まちづくりプロジェクト」として実施）。
- 高校における「学校グランドデザイン」を作成した。その中で，生徒に身に付けさせたい資質・能力を「○○ができる」という形で明確化した。また，それに準じて中学校版を作成することができた。
- 「○○ができる」をループリック化し，学期毎の目標設定や振り返りシートとして活用することができた。
- キャリア・パスポートを作成し，中高で持ち上がることができた。
- 児童や生徒，そして教員同士の小中高連携・協働を推進することができた。
- 生徒に対するアンケートを分析すると以下のとおりになる。
  - ・全体の傾向としては，「学びの意識」の項目では，「そう思う」「だいたいそう思う」の肯定

的意見（以下肯定的意見）が昨年度事後 62%→今年度事前 79%→今年度事後 86%、「キャリア教育の充実」の項目では、肯定的意見が昨年度事後 73%→今年度事前 67%→今年度事後 86%と増えている。

- ・第1学年においては、「キャリア教育の充実」の項目では、肯定的な意見が今年度事前 58%→今年度中間 71%→今年度事後 86%と大幅に増えている。総合的な学習の時間での「まちづくりプロジェクト」が影響していると考えられる。
- ・今年度の中間アンケートでは、第2学年の「学びの意識」「主体的・対話的で深い学び」の項目で肯定的な意見が 100%になった。

○教員に対するアンケートを分析すると以下のとおりになる。

- ・「学びの意識」の項目では、生徒の肯定的な意見が昨年度事後 62%→今年度事後 86%で、教員の肯定的な意見は昨年度事後 100%→今年度事後 82%と今年度の事後では、生徒の肯定的な意見が増え、教員と意識の差がなくなっている。継続的な指導の成果と考えられる。

- ・「キャリア教育の充実」「地域連携・協働」の項目では、肯定的な意見が 100%になった。

●今年度スタートさせた小中高連携による「ふるさと学」を12年間の発達段階を見通した系統的なものにしていく必要がある。

●「キャリア・パスポート」は校種縦断的・教科横断的に12年間を紡ぐことができるよう、内容を充実させる必要がある。また、生徒理解・自己理解を紡ぐ「キャリア・パスポート」とし、きめ細やかなキャリア支援につなげていく必要がある。

●生徒に対するアンケートを分析すると以下のとおりになる。

- ・「キャリア教育の充実」の項目では、3学年とも80%程度にとどまっており、3年間を見通した系統的な「まちづくりプロジェクト」への改善が必要である。

●教員に対するアンケートを分析すると以下のとおりになる。

- ・「カリキュラム・マネジメント」の項目では、肯定的な意見が73%と最も低い数値となっている。新しい学習指導要領も見据えて、早急に総合的な探究の時間や特別活動を要としたキャリアの視点を重視した教育課程の抜本的な見直しが必要である。

#### 4 今後の取組

2年間の研究指定校事業を通して、小中高連携により、様々な取組をスタートさせることができた。しかし、スタートさせることよりも継続する困難さも予想される。今後は、さらに小中高連携を「進化+深化」させ、継続できる体制を構築していく必要がある。そのためにも、長万部町の教育全体におけるカリキュラム・マネジメントを推進していきたいと考えている。